

飛田雄一 六甲山、それなりの全山縦走の記



最高峰で



最高峰より大阪方面を望む



正月 3 日（2026 年）、六甲山全山縦走最後のパートを歩いた。六甲ケーブルから宝塚。ケーブル乗車後、東へ東へと歩いた。快晴。前日、雪が降ったが 2、3 センチの感じだった。問題なかった。全山を 4 つのパートに分けて 4 年間かけて縦走するのだ。今年は、その 4 回目にあたる。

ケーブルは、ほとんどが子ども連れのスキー客。人口スキー場に行くのだ。このスキー場、私も何回か行った。が、よけいにストレスとなるので、やめた。人が多いし、もっと長く滑りたいのだ。

ケーブル山頂駅から歩き始めた。メンバーは 4 人。O さん、H さん、K さん。平均年齢 70 過ぎの男ばかり。小学生が 2 人参加の予定だったがキャンセルだった。

順調にゴルフ場をぬけ、ガーデンテラスへ。樹氷？ がきれいだ。雪が多いところもある。極楽茶屋の手前の下りで、以前堀内稔さんが転倒、動けなくなつた。今回よりもっと雪が多く凍結していた。携帯が通じない。極楽茶屋あたりまで下ると通じた。119 した。つながった。だいぶして来てくれた。私は救急車に同乗して、鈴蘭台の病院まで行った。歩いてきた道をもどつた？ のだ。複雑骨折。たいへんだった。

動けない堀内さんに「だいじょうぶですか」と声をかける人もいる。「いま、友人が救急車を呼んでくれています」。

あるグループは、「ああこわ！」といつて、声もかけずに降りて

といった。こわい。



一軒茶屋でランチ。私はカレーを食べた。壁に「定休日：天候の悪い日」とあった。吹雪のなかでここに来た人はどうなるのだろう。

そして、更に東に向かう。石の宝殿。以前、縦走のときに間違ってここに入った。大幅に時間をロスして大ブーイングを受けた。今回は、道路をそのまま進んで無事宝塚への縦走路に入る。慈（うつみ）さんのグループとすれ違う。宝塚から摩耶山まで行くのだという。すごい。慈憲一さんは、有名な「naddist(灘イスト)」。灘と摩耶山を誰よりも愛している。旧摩耶山ホテルの「幽霊ツアーチ」を主催したりしている。私は恐いので行かない。

水無山を通過。が、どこが山頂なのか分からぬ。船坂峠。当初、4回での縦走は無理があるので船坂峠から北に降り、「舟坂」からバスで宝塚に行くことも考えた。が、行ったことのない道なのでやめた。

太平山。ここもどれが山頂なのか分からぬ。超急坂を降りて大谷乗越。ここには、道路がある。以前の縦走のことのこと。その時はほんとの全山縦走だった。もう真っ暗だった。ヘッドライトを頼りに歩いていたが、道を間違えた。夜はこわい。引き返した。助かった。中島みゆき「ヘッドライトテールライト」を思い出した？ 今回は、まだ午後3時頃。問題はなかった。

更に東の岩倉山、そして塩尾寺（えんpeiじ）についた。塩尾寺への道は以前ジェットコースターのような歩きにくい道だったが、今回きれいに整備されていた。うれしい。ごくろうさま。

最後のほう、OさんとHさんは、快調そのもの。どんどん先を歩く。いちばん遅いのが私。馬力がでない。Kさんは私に付き合って第2グループを歩いてくれた。

そして、無事、宝塚に到着した。午後4時半。予定通りだ。うれしい。宝塚の韓国料理店で祝杯をあげた。

スマホのYAMAPで記録したコース動画を、<https://ksyc.jp/mukuge/202601rokko-takaraduka.mp4>にアップした。YAMAP無料版でこの動画をゲットできるようになった。うれしい。



この4回にかけての六甲山全山縦走。3クールした。それ以前には、Tさん堀内さんと縦走の一部分を歩いていた。先の骨折事件は、そのときのもの。

今回の六甲ケーブルから宝塚のコースは、長い。途中船坂峠からの下山案、これはすでに書いたように初めてのコースなので断念。石の宝殿から芦有ドライブウェイ下山案もあった。が、これも、石の宝殿バス停廃止で断念。しかたなく、強行した。

小学生がいたら、もっと雪が積もっていたら、凍結していたら、こわい。このコースは、終了（卒業）することにする。

全山縦走、私は一度だけ成功した。これを2度するのはばかげ

ている。我慢大会のようなものだ。かの加藤文太郎は、鷹取の自宅から塩屋、六甲山、宝塚と縦走してその日のうちに鷹取にもどったという。すごい。今回、何人かの「韋駄天」に追い抜かれた。中には半ズボンで走っている人もいる。やりすぎだ。全山縦走一度成功すれば、もう充分だ。

私は2度失敗して3度目に成功した。3、4人でチャレンジした。成功のコツを伝授しよう。神戸市など主催の「全山縦走大会」に参加することだ。2、3千人が一緒に歩くと高倉山の長い階段などゆっくりゆっくりとなる。これがいいのだ。私が失敗したときはこの辺りを快調に歩く。あとで、バテル、のだ。あるときは、早くも午前11時ごろには、摩耶山まで来たが、ばててロープウェイで下山した。まあ、やってみたい人には、一度はお勧めだ。少人数でトライするときは、あくまで、自重的に、ヘッドライトをつけてやってください。



今回で卒業した全山縦走。でも、正月ハイキングは続けたい。その第1弾、こんなのはどうだろう。題して「お正月、らくちんちんたらハイキング」

2027年1月3日。午前10時、六甲ケーブル下駅集合。ケーブル乗車、六甲ケーブル山上駅から西へアゴニー坂、天上寺、摩耶山（ここでランチ）、縦走路の天狗道、稻妻坂、市ヶ原、新神戸駅、そして三宮「珉珉」。もともと、正月ハイキングは珉珉が定番だった。板宿、六甲道にも珉珉があったのだ。仲間を募集中。が、エ

ントリーは、まだ受け付けない。

飛田雄一「六甲山、それなりの全山縦走の記」

2026年1月5日発行

執筆・編集・印刷・発行 飛田雄一（ひだ ゆういち）

〒657-0011 神戸市灘区鶴甲 4-3-18-205

e-mail hida@ksyc.jp
